



えひめけんすもうれんめい 愛媛県相撲連盟 殿

昭和22年発足
松山市

■事績

1947年に発足した愛媛県相撲連盟は、県内の相撲愛好団体の統括組織として、相撲大会の開催や全国大会などへの選手の派遣、指導者の養成などを行ってきた。

特に昨年は、子供から大人まで全国大会などで好成績を残した。3月に行われた全国高校相撲新人選手権で、野村高校が19年振りとなる準優勝。6月に行われた第2回全国女子相撲選抜ひめじ大会では重量級で津島高校2年の水沼ひかるさんが優勝。7月には、「わんぱく相撲全国大会」で、愛南町の福原文一朗君が小学4年生の部で愛媛県選手として初めての優勝を飾る。8月のインターハイでは、津島高校3年の山口怜央選手が、愛媛県選手として61年振りの高校横綱となる。10月のいわて国体では、山口選手と野村高校、南宇和高校の選手で構成した少年男子が準優勝、成年男子も3位に入り、競技別天皇杯（優勝）を初めて獲得する活躍、愛媛県の実業杯7位躍進に貢献した。

愛媛県相撲連盟では2012年からえひめ国体に出場する世代にあたる中学・高校生を対象に強化を始め、2013年には連盟独自でえひめ国体対策本部を立ち上げ、強化に務めている。選手を県外に遠征させたり、強豪選手を招いて合宿するなど、子供から大人まで、一体となった育成や競技力向上の成果が出ていて今年開催されるえひめ国体も大いに期待される。